

条 里 跡

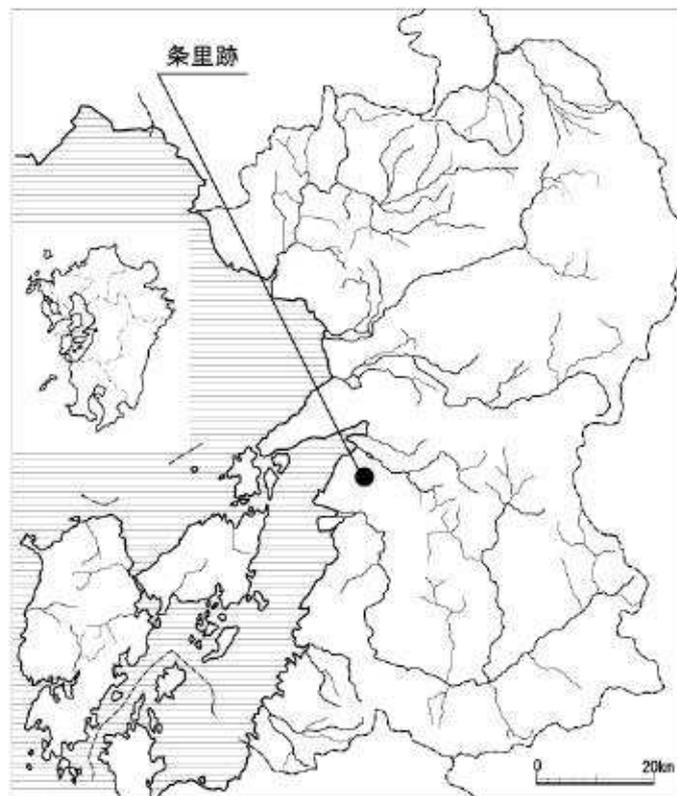
－氷川機動センター新築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告－

熊本県教育委員会

2018.3

条里跡

- 熊本県八代郡氷川町所在の埋蔵文化財 -



熊本県教育委員会

2018.3

序 文

熊本県教育委員会では、平成28年の7月から9月にかけて、氷川機動センター新築工事に伴い、熊本県八代郡氷川町早尾字上八ツ川に所在する「条里跡」の発掘調査を実施しました。

本遺跡は、古代から中世の生産遺跡である条里跡に推定されています。今回の調査で確認された溝遺構は、水田に関連するものと推定されます。また、出土した古代の土師器や須恵器などの遺物は、東側から流れ込んだもので、当時の景観を復元するうえで、特に居住域と生産域の位置関係を知る手がかりとして貴重な示唆が得られました。

本報告が地域の発展とともに、将来、地域の貴重な歴史の情報として広く継承・活用され、郷土の歴史に対する理解を深め、ひいては今後の研究及び教育・文化の向上の一助になれば幸いに存じます。

なお、本調査を実施するにあたり、御理解と御協力をいただいた地元の皆様をはじめ、氷川町教育委員会、事業主である熊本県警察本部に対し心より深く感謝申し上げます。

平成30年3月31日

熊本県教育長 宮尾 千加子

例言

- 1 本書は、熊本県八代郡氷川町に所在する条里跡の埋蔵文化財発掘調査の調査報告書である。
- 2 発掘調査は、熊本県警察本部会計課の依頼を受け、熊本県教育委員会が実施した。調査費及び整理報告費については、同事業部が負担した。
- 3 現地調査は、平成28年7月25日～平成28年9月30日に実施し、中村幸弘が担当し、水上正孝が補佐した。現地での写真撮影は中村が行った。
- 4 測量基準杭の設定（世界測地系）は、株式会社十八測量設計に委託した。
- 5 遺物の整理作業、報告書作成は、平成29年度に熊本県文化財資料室において実施した。
- 6 出土遺物の写真撮影は、村田百合子・松本智子・野下智美が行った。
- 7 遺物の実測及び遺構図の製図は、春川香子が行った。
- 8 本書の執筆・編集は、春川の援助を得て田尻龍信が行った。
- 9 遺物・写真・図面等は、熊本県文化財資料室（熊本市南区城南町沈目1667）に保管している。

凡例

- 1 本書で使用している方位は、座標軸を基準とした北を示している。
- 2 現地での遺構の実測は、10分の1及び100分の1の縮尺で行った。
- 3 遺物の実測は原寸大で行い、報告書に掲載した実測図の縮尺は3分の1とした。
- 4 実測した遺物について、出土遺物観察表を掲載した。
- 5 遺構図の縮尺はキャプション及びスケールで示した。
- 6 遺構名称は、溝をSで表記している。
- 7 土器及び土層の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修「新版 標準土色帖」（財団法人日本色彩研究所：2004）に、磁器の色調は、「中国の伝統色」第2版（大日本インキ化学工業株式会社：1986）に準拠した。
- 8 写真の縮尺は任意である。

本文目次

序文

例言・凡例

目次

第1章 調査の経緯と経過

第1節 調査に至る経緯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

第2節 調査及び整理の組織・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

第3節 発掘調査の経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

第2章 条里跡の位置と環境

第1節 地理的環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

第2節 歴史的環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

第3章 調査の方法と成果

第1節 調査の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

第2節 調査の成果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11

第4章 まとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

写真図版

報告書抄録

挿図目次

| | | |
|-----|----------------------|----|
| 第1図 | 条里跡周辺遺跡地図 | 5 |
| 第2図 | 条里跡土層断面図 | 8 |
| 第3図 | 条里跡グリッド図・調査範囲及び遺構配置図 | 9 |
| 第4図 | S-001・S-002・ピット実測図 | 10 |
| 第5図 | 出土遺物実測図 | 11 |
| 第6図 | 宮原町の条里制遺構と本調査区 | 13 |

表目次

| | | |
|-----|--------------|----|
| 第1表 | 条里跡周辺遺跡一覧(1) | 6 |
| 第2表 | 条里跡周辺遺跡一覧(2) | 7 |
| 第3表 | 出土遺物観察表 | 11 |

写真目次

| | | |
|-----|----------------------------------|----|
| 図版1 | | 15 |
| | 断面1(北から) 断面2(東から) | |
| 図版2 | | 16 |
| | 遺構検出状況(南から) S-001土層断面(南から) | |
| | S-002土層断面(南から) | |
| 図版3 | | 17 |
| | 出土遺物1(須恵器) 出土遺物2(須恵器) 出土遺物3(須恵器) | |
| | 出土遺物4(須恵器) 出土遺物5(須恵器) 出土遺物6(青磁) | |
| | 出土遺物7(磁器) | |

第1章 調査の経緯と経過

第1節 調査に至る経緯

今回報告する条里跡は、氷川町宮原から氷川町早尾へ移転する氷川機動センターの新築工事に伴い発掘調査を実施したものである。

熊本県警察本部より平成27年7月27日付け熊会第552号により予備調査依頼があり、平成27年9月30日に熊本県教育委員会が確認調査を実施した。その結果、遺物（土師器の小片）及び時期不明の遺構（ピット、土坑）が確認され、文化財保護法（以下「法」）第100条に基づく文化財発見通知（平成27年10月6日付け教文第1346号）を熊本県警察本部に送付した。

その後、熊本県警察本部より文化財保護法（以下「法」）第94条に基づく発掘通知（平成28年3月25日付け熊会第250号）が出され、法第99条に基づく発掘調査通知（平成28年4月18日付け教文第83号）により、熊本県教育委員会が調査を実施した。

第2節 調査及び整理の組織

調査及び整理は下記の組織で行った（所属等は調査当時のものである）。

1 発掘調査の組織（平成28年度）

調査責任者 平井 貴（文化課長）
村崎孝宏（課長補佐）
調査総括 岡本真也（主幹兼文化財調査第2係長）
調査事務局 左座 守（主幹兼総務・文化係長） 稲本尚子（参事） 天草英子（参事）
竹馬牧子（主事）
調査担当 中村幸弘（参事）
調査補助 水上正孝（文化財保護主事）
調査作業員 石本幸男 浦 宏 河野美代子 鳥丸俊一 黒木 隆 矢野雅彦 島田眞二
川本 學 巻田はるえ 黒田紀男 林 次憲

2 整理の組織

整理責任者 岡村郷司（文化課長）
村崎孝宏（課長補佐）
調査総括 岡本真也（主幹兼文化財調査第2係長）
整理事務局 左座 守（主幹兼総務・文化係長） 稲本尚子（参事） 津田光生（参事）
竹馬牧子（主事）
整理担当 田尻龍信（文化財保護主事） 春川香子（臨時整理補助員）
濱崎清子（整理作業員） 立石美代子（整理作業員）
整理作業員 重永照代 田中洋子 松本加代子 久野成實 笹原英子 中尾規子
二田美記子 柳瀬英一郎 中島幸子

第3節 発掘調査の経過

現地調査は、平成28年7月25日～平成28年9月30日に実施した。その間の経過は以下のとおりである（調査日誌より抜粋）。

7月25日 作業員4名で調査開始。機材搬入、水中ポンプによる水抜き、周辺の草刈り。

- 7月26日 水中ポンプによる水抜き。周辺の草刈り。
- 7月27日 4級基準点測量及びメッシュ杭打ち（株式会社十八測量設計）。調査区内泥除去。
- 7月28日 調査区内（南側）泥除去。熊本県警察本部会計課4名来跡。調査作業員追加募集の準備。
- 7月29日 調査区内（西側）泥除去。
- 8月1日 県文化課水上文化財保護主事来跡。調査区内（南・西側）泥除去。
- 8月2日 調査区内（南・西側）泥除去。
- 8月3日 調査作業員追加募集の面接試験のため作業中止。氷川警察署刑事生活安全課来跡。
- 8月4日 追加調査作業員の事務のため作業中止。
- 8月5日 降雨のため作業中止。水中ポンプによる水抜き。
- 8月8日 追加調査作業員の事務のため作業中止。水中ポンプによる水抜き。
- 8月9日 県文化課水上文化財保護主事来跡。追加調査作業員任用開始。北西深堀トレンチ及び西壁トレンチ掘削。
- 8月10日 県文化課水上文化財保護主事来跡。北西深堀りトレンチ掘削並びに土層の確認。西壁トレンチ掘削完了。南西深堀りトレンチ及び西壁トレンチ2掘削。
- 8月16日 県文化課水上文化財保護主事来跡。南西深堀りトレンチ掘削並びに土層の確認。西壁トレンチ2掘削完了。南壁トレンチ掘削。
- 8月17日 南壁トレンチ掘削完了。東壁トレンチ掘削。
- 8月18日 氷川町教育委員会今田氏他1名来跡。東壁トレンチ掘削完了。北壁トレンチ掘削。
- 8月19日 北壁トレンチ掘削完了。
- 8月22日 県文化課岡本主幹兼文化財調査第2係長来跡。9826Gの掘り下げ。
- 8月29日 水抜き後、9826Gの掘り下げ。
- 8月30日 9826Gの掘り下げ。暗褐色粘質土層（確認調査で検出した遺物包含層）上面まで掘削。
- 8月31日 9826Gの掘り下げ。暗褐色粘質土層（確認調査で検出した遺物包含層）上面まで掘削完了。9726Gの掘り下げ。確認調査トレンチを検出。
- 9月1日 県文化課古城主幹来跡。9726Gの掘り下げ。
- 9月6日 9726Gの掘り下げ。9826Gのサブトレンチ掘削。暗褐色粘質土層（確認調査で検出した遺物包含層）掘削、灰褐色粘土（遺構検出面）の検出。
- 9月8日 古城主幹、坂井田参事来跡。9726Gの掘り下げ。
- 9月9日 9726Gの掘り下げ。暗褐色粘質土層（確認調査で検出した遺物包含層）上面まで掘削完了。
- 9月13日 水抜き後、9827Gの掘り下げ。
- 9月16日 水抜き後、9827Gの掘り下げ。灰褐色粘土（遺構検出面）及び溝を2条検出。
- 9月23日 古城主幹、坂井田参事来跡。水抜き後、9827G及び9826Gの暗褐色粘質土層（確認調査で検出した遺物包含層）の掘り下げ。9827Gでは、溝を2条、ピットを1基検出。
- 9月26日 古城主幹、坂井田参事来跡。9826G及び9726Gの暗褐色粘質土層（確認調査で検出した遺物包含層）の掘り下げ。9826Gは完了。南側に9827Gで検出した溝の続きを検出。
- 9月27日 9827Gの溝をS-001、S-002と命名。調査区土層断面及び、S-001、S-002の埋土断面状況の撮影。9726Gの掘り下げ。
- 9月28日 古城主幹、坂井田参事来跡。調査区土層断面及び、S-001、S-002の埋土断面の実測。9726Gの掘り下げ。
- 9月29日 機材片付け等。
- 9月30日 古城主幹、坂井田参事来跡。調査区平面の実測並びに調査区全景の撮影。機材撤収。調査終了。

第2章 条里跡の位置と環境

第1節 地理的環境

1 遺跡の位置

条里跡が所在する八代郡氷川町は、熊本県のほぼ中央、北緯32度54分、東経130度67分、熊本市から約30km南、八代地域の北部に位置し、北は宇城市、南は八代市に接している。南北約5.5km、東西約13.5kmで東西に長く、総面積は33.3km²である。

町の中央部を東から西へ2級河川の氷川が流れ、南北に走る国道3号を境に、東側に山林、丘陵地帯、西側には不知火干拓をはじめとした平坦な地層が広がっている。そもそもそこは、古代においては、三角州を基礎とした山麓線から約1.5km幅の狭小な平野であった。しかし、今日広がっている平野のほとんどは潮の干満の差を利用した近世以降の干拓によるものである。そのため、氷川下流域において、国道3号より東側は縄文時代の貝塚、古墳など古代以前の遺跡が集中し、西側は中世以降、特に近世の遺跡が集中している。



調査位置図（出典：国土地理院ウェブサイト）

第2節 歴史的環境

旧石器時代

九州縦貫自動車道建設に伴い調査が実施された立神ドトク遺跡(465-060)では、旧石器時代のナイフ形石器や細石器などが出土したことから、古くからこの八代地域にも人々が住んでいたことが明らかになっている。

縄文時代

当時海岸線であった国道3号近くに貝塚が集中している。その中でも、大野貝塚(464-011)は、1875年にE・モースが発掘した縄文時代後期の貝塚で、約10,000㎡の広さであった。また、標高50mの台地上に位置する西平貝塚(464-010)は縄文時代後期・晩期を中心とする貝塚で、九州の後期縄文土器を代表する西平式土器は、この遺跡を指標としている。

弥生時代

国道3号の東側に位置する法道遺跡(464-071)や辻遺跡からは、土師器、須恵器及び弥生土器が出土している。また、国道3号の西側に位置する三十六遺跡(464-029)や仲ノ間・角田遺跡(464-140)からは、弥生土器が出土している。

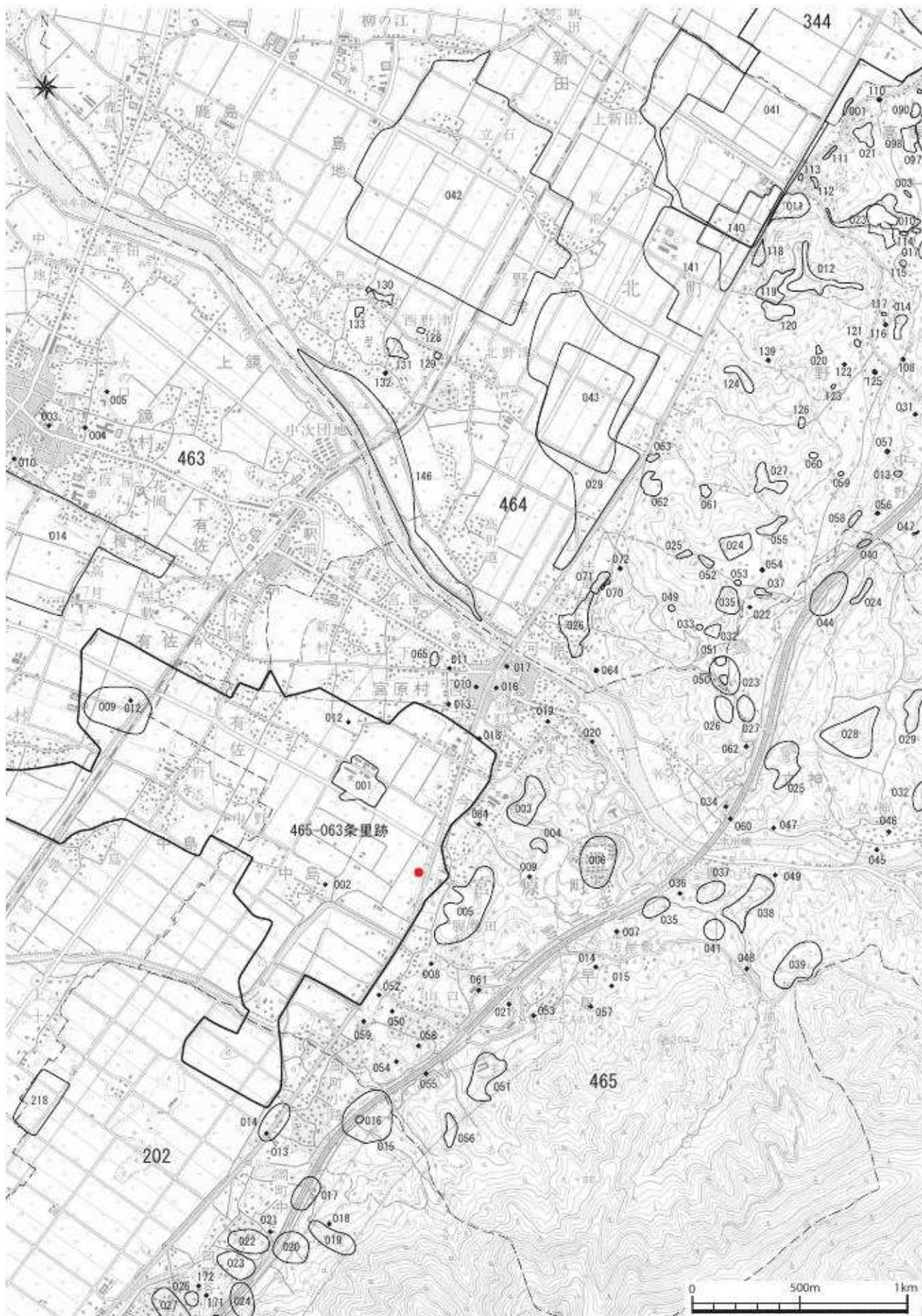
古墳時代

多数の古墳が確認されている。もっとも古い遺跡は古墳時代前期の東原A遺跡で、方形周溝墓が確認されている。また、氷川下流域において概要が分かっている古墳の多くは古墳時代後期のものである。野津古墳群は、姫ノ城古墳(464-024)、物見櫓古墳(464-025)、端ノ城古墳(464-032)、中ノ城古墳(464-035)の4基の前方後円墳からなる。大野窟古墳(464-014)はその後に続く古墳と考えられており、併せて当時の豪族「火の君」の墳墓に比定されている。これらを中心として、古墳の築造が集中する。しかし、小円墳や横穴墓群は継続するものの、急速に前方後円墳の数は減少し、規模は小さくなっていく。

古代

7世紀に入ると古墳の数は急激に減り、替わって寺院が作られるようになる。氷川下流域の野津地区にも法道寺が建てられた。また、九州縦貫自動車道建設に伴って平原瓦窯跡群(465-035)の調査が実施され、軒平瓦・軒丸瓦が出土しており、8世紀前葉の瓦窯址とされている。

律令制度の時代になると、地方は国・郡・里の行政制度がとられるようになった。併せて土地制度が整えられ、白鳳期～奈良時代にかけて行われた条里制は、八代郡にも広がっている。八代郡の条里制は、現在の国道3号～JR鹿兒島本線の間に残存している。高塚条里跡(464-041)では「拾七」、条里跡(465-063)の宮原近くに「口ノ坪」、氷川中学校近くに童子(十五)、野津地区の小春条里跡(464-043)に「三十六」の地名が残っていることから、条里制の断片を知ることができる。



第1図 条里跡周辺遺跡地図 (1/25000)

※ ● は調査地点

水川町(旧 竜北町)(464)

| 遺跡番号 | 遺跡名 | 時代 | 種別 | 指定 | 備考 | 遺跡番号 | 遺跡名 | 時代 | 種別 | 指定 | 備考 |
|------|----------|--------|-----|----|---|------|----------|-------|-----|----|--|
| 001 | 四ツ江貝塚 | 縄文 | 貝塚 | | | 060 | 上天堤B古墳 | 古墳 | 古墳 | | 消滅 |
| 003 | 竹ノ下横穴群 | 古墳 | 横穴 | | 9基。保管先不明 | 061 | 上迫遺跡 | 弥生?~ | 包蔵地 | | |
| 010 | 西平貝塚 | 縄文~古代 | 貝塚 | | 西新城跡。土輪塔・板碑あり | 062 | ハル遺跡 | 近世 | 包蔵地 | | |
| 011 | 大野貝塚 | 縄文 | 貝塚 | | 遺物は東京博物館・東京大学にも保管。現在は社会教育センター敷地 | 063 | 北川遺跡 | 弥生~古代 | 包蔵地 | | |
| 012 | 太尾古墳群 | 古墳 | 古墳 | | 「大野村貝塚付近の石棺」は太尾古墳群のものか? 舟形石棺(石椁)。家形石棺? 「古墳合葬の祠」あり | 064 | 阿弥陀寺跡 | 近世? | 社寺跡 | | 無量寿経一石一字塔 |
| 013 | 六反田A古墳 | 古墳 | 古墳 | | 円墳・横穴式石室・割旗玄門。旧六反田古墳 | 070 | 中山王遺跡 | 古墳 | 包蔵地 | | |
| 014 | 大野窟古墳 | 古墳 | 古墳 | 県 | 須恵器・土師器・中世土器? 円墳(前方後円墳?)・横穴式石室 | 071 | 法道遺跡 | 古墳? | 包蔵地 | | |
| 017 | 新城跡 | 縄文?・中世 | 城跡 | | | 072 | 狭山古墳 | 古墳 | 古墳 | | 舟形石棺の身(赤色顔料あり) |
| 020 | 笠尾城跡 | 中世 | 城跡 | | 城主は小式部卿 | 090 | 乱橋A遺跡 | 縄文~ | 包蔵地 | | |
| 021 | 高城跡 | 中世 | 城跡 | | | 097 | 乱橋C遺跡 | 縄文~中世 | 包蔵地 | | |
| 023 | 西新城跡 | 中世~近世 | 城跡 | | 西平貝塚の上。土輪塔・板碑あり。吉本城二の丸 | 098 | 乱橋D遺跡 | 縄文~ | 包蔵地 | | |
| 024 | 姫ノ城古墳 | 古墳 | 古墳 | 県 | 前方後円墳・横穴式石室? 円筒埴輪・形象埴輪・須恵器・金環・骨片・石製表飾品 | 108 | 地蔵堂古墳 | 古墳 | 古墳 | | 凝灰岩の石棺(家形石棺?) 板碑・土輪塔あり |
| 025 | 物見橋古墳 | 古墳 | 古墳 | 県 | 前方後円墳。複室の横穴式石室 | 110 | 乱橋古戦場跡 | 近世 | 古戦場 | | 凝灰岩の石棺(家形石棺?) 板碑・土輪塔あり 1600年、加藤对小西の戦場 1582年、霧摩軍人对高塚城主の渡戦地の2説 |
| 026 | 法道寺跡 | 弥生?~中世 | 寺社跡 | | 付近に「市場」「門前」の地名残る? | 111 | 杉の谷横穴群 | 古墳 | 横穴 | | 11基 |
| 027 | 磯石古墳群 | 古墳 | 古墳 | | 「黒縁塚」の碑?あり 割竹形石椁。円墳3基+不明1基。旧磯石(北川)石棺群 | 112 | 赤迫A貝塚 | 縄文 他 | 貝塚 | | |
| 029 | 三十六遺跡 | 縄文~中世 | 包蔵地 | | 旧東法道遺跡。小春条里内。黒曜石・弥生土器・須恵器・土師器・中世土器?・石器(磨石)・軟骨 他 | 113 | 赤迫B貝塚 | 縄文 | 貝塚 | | |
| 031 | 永田古墳群 | 古墳 | 古墳 | | 小円墳群・横穴式石室 石棺? 圓の磨の板碑あり | 114 | 八幡王古墳 | 古墳 | 古墳? | | 参考地 |
| 032 | 織ノ城古墳 | 古墳~中世 | 古墳 | 県 | 前方後円墳。石棺式石室? | 115 | 城の上古墳 | 古墳 | 古墳? | | 消滅。隣の民家に凝灰岩あり |
| 033 | 上北山王A古墳群 | 古墳 | 古墳 | | 消滅。旧上北山王古墳(A古墳B古墳)。舟形石棺 | 116 | 上天堤横穴群 | 古墳 | 横穴 | | 3基。本残寺の裏 |
| 035 | 中ノ城古墳 | 古墳 | 古墳 | 県 | 前方後円墳。横穴式石室 | 117 | 下天堤古墳 | 古墳 | 古墳? | | 消滅(昭和58・59年頃) |
| 037 | 野津5号古墳 | 古墳 | 古墳 | | | 118 | 入山A遺跡 | 弥生~中世 | 包蔵地 | | |
| 041 | 高塚条里跡 | 弥生~中世 | 条里跡 | | | 119 | 入山B遺跡 | 縄文~古墳 | 包蔵地 | | |
| 042 | 立石条里跡 | 弥生~中世 | 条里跡 | | | 120 | 神太夫B遺跡 | 古墳 | 包蔵地 | | |
| 043 | 小春条里跡 | 弥生~中世 | 条里跡 | | 三十六遺跡を含む | 121 | ノンボク遺跡 | 縄文 | 包蔵地 | | |
| 047 | 浄土横穴群 | 古墳 | 横穴 | | 埋没 | 122 | 上天堤F古墳 | 古墳 | 古墳 | | |
| 049 | 上北山王B古墳 | 古墳 | 古墳 | | 消滅 | 123 | 神太夫石棺 | 古墳 | 石棺? | | 埋没 |
| 050 | 上北山王C古墳 | 古墳 | 古墳 | | 円墳2基。下溝口古墳群が舊岡古墳群の可能性あり | 124 | 下松尾古墳群 | 古墳 | 古墳 | | 長さ1mの凝灰岩の自然石あり |
| 051 | 上北山王D古墳 | 古墳 | 古墳 | | | 125 | 上天堤C古墳 | 古墳 | 古墳 | | 消滅 |
| 052 | 上天堤G古墳 | 古墳 | 古墳 | | 天堤古墳の可能性あり | 126 | 十反遺跡 | ? | 包蔵地 | | |
| 053 | 上天堤I古墳 | 古墳 | 古墳 | | | 128 | 北野津A遺跡 | 近世? | 包蔵地 | | |
| 054 | 上天堤E古墳 | 古墳 | 古墳 | | 消滅。「大地之御親」碑 1979年建立 | 129 | 北野津B遺跡 | 近世? | 包蔵地 | | |
| 055 | 上天堤A古墳 | 古墳 | 古墳 | | | 130 | 西野津A遺跡 | 古代~近代 | 包蔵地 | | 光永星郎生誕地 |
| 056 | 六反田B古墳 | 古墳 | 古墳 | | | 131 | 西野津B遺跡 | 中世? | 包蔵地 | | 地蔵さんあり 西野阿弥陀堂の板神あり |
| 057 | 六反田C古墳 | 古墳 | 古墳 | | | 132 | 西野津C遺跡 | 中世? | 包蔵地 | | |
| 058 | 上天堤D古墳 | 古墳 | 古墳 | | 消滅 | 133 | 西野津D遺跡 | 中世 | 包蔵地 | | |
| 059 | 上天堤H古墳 | 古墳 | 古墳 | | 消滅 | 139 | 神太夫C遺跡 | 不明 | 包蔵地 | | 土師器?他 |
| | | | | | | 140 | 仲ノ岡・角田遺跡 | 弥生~ | 包蔵地 | | 旧反浦遺跡 |
| | | | | | | 141 | 神太夫A遺跡 | 弥生~中世 | 包蔵地 | | |
| | | | | | | 146 | 水川の二重堤 | 近世 | 堤跡 | | 洪水時の調節 堤跡は一部推定 |

水川町(旧 宮原町)(465)

| 遺跡番号 | 遺跡名 | 時代 | 種別 | 指定 | 備考 |
|------|----------------|----|-----|-----|------------------------------------|
| 001 | 水川中学校遺跡 | 古代 | 包蔵地 | | 土師器・須恵器・磁骨器 |
| 002 | 原田古墳 | 古墳 | 古墳 | | |
| 003 | 室の山古墳群 | 古墳 | 古墳 | 町 | 舟形石棺(1号・2号) |
| 004 | 天眞横穴群 | 古墳 | 古墳 | | |
| 005 | 大王山古墳群 | 古墳 | 古墳 | 県・町 | 3号(黒史跡) 円墳。割石小口横の壑穴式石室を有し、船形石棺をもつ。 |
| 006 | 桜が丘古墳群 | 古墳 | 古墳 | | |
| 007 | 一と口坂古墳 | 古墳 | 古墳 | 町 | |
| 008 | 峰薬師古墳 | 古墳 | 古墳 | | |
| 009 | 平塚古墳 | 古墳 | 古墳 | | 須恵器・土師器 |
| 010 | クリシタン遺跡 | 近世 | 包蔵地 | 町 | 御高札遺跡 |
| 011 | 三神宮神蔵寺塔心礎 | 近世 | 寺社 | 町 | |
| 012 | 原田四面仏(橋本家前四面仏) | 中世 | 石造物 | 町 | |
| 013 | 宮原城 | 中世 | 城 | | |

第1表 条里跡周辺遺跡一覧(1)

水川町(旧 宮原町) (465)

| 遺跡番号 | 遺跡名 | 時代 | 種別 | 指定 | 備考 |
|------|-----------------|--------|-----|----|---------------------------------|
| 014 | 坊屋敷四面仏 | 中世 | 石造物 | 町 | |
| 015 | 坊屋敷観音堂宝塔 | 中世 | 石造物 | 町 | |
| 016 | 仁王尊石像 | 中世 | 石造物 | 町 | |
| 017 | 三宮社六地藏 | 近世 | 石造物 | 町 | |
| 018 | はらあみどう(井井別荘)六地藏 | 中世 | 石造物 | | |
| 019 | 常森寺宝篋印呪巻・板碑二面 | 中世 | 石造物 | 町 | |
| 020 | 郡代御訪所銀鏡橋 | 近世 | 建造物 | 町 | |
| 021 | 林源右衛門の墓 | 近世 | 墓 | | 県教委調査。 |
| 022 | 下清口火葬墓跡 | 近世 | 墳墓 | | 蔵骨器 |
| 023 | 下清口古墳群 | 古墳 | 古墳 | | 円墳(1号・2号・3号) |
| 024 | 七つ穴横穴群 | 古墳 | 古墳 | 町 | 22基、土師器片 |
| 025 | 清口古墳群 | 古墳 | 古墳 | | 円墳(1号・2号・3号) |
| 026 | 雷園古墳群 | 古墳 | 古墳 | | 円墳(1号・2号・3号・4号)、須恵器 |
| 027 | 園の迫古墳群 | 古墳 | 古墳 | | 円墳(1号・2号)、須恵器・円筒埴輪 |
| 028 | 九十九塚古墳群 | 古墳 | 古墳 | | |
| 029 | 清川古墳群 | 古墳 | 古墳 | | 円墳(1号・2号・3号) |
| 032 | 立神本村古墳群 | 古墳 | 古墳 | | 円墳(1号・2号) |
| 034 | 立神寺院跡 | 縄文～中世 | 包蔵地 | | 押型文 |
| 035 | 平原瓦窯跡群 | 古代 | 生産 | | 布目瓦。県教委調査。 |
| 036 | 平原寺跡 | 古代～中世 | 寺社 | | |
| 037 | 下平原遺跡 | 古代・中世 | 包蔵地 | | |
| 038 | 上平原遺跡 | 古代・中世 | 包蔵地 | 町 | |
| 039 | 花立山古墳群 | 古墳 | 古墳 | | |
| 040 | 岩立三つ穴横穴群 | 古墳 | 古墳 | 町 | 野津古墳群内、円筒埴輪、形象埴輪(男・鶏)、須恵器、前方後円墳 |
| 041 | 平原遺跡 | 古墳～中世 | 包蔵地 | | |
| 044 | 岩立古墳群(A・B・C墳) | 古墳 | 古墳 | | 円墳。C墳は県教委調査 |
| 045 | 立神六地藏 | 中世 | 石造物 | 町 | |
| 046 | 立神見沙門天前五輪塔 | 中世 | 石造物 | 町 | |
| 047 | 立神薬師の板碑 | 中世 | 石造物 | 町 | 阿弥陀三尊来迎像 |
| 048 | 丸山五輪塔群 | 中世 | 石造物 | 町 | 13基 |
| 049 | 上平原古墳 | 古墳 | 古墳 | | 県教委調査。移転 |
| 050 | 檜古墳 | 古墳 | 古墳 | | |
| 051 | 小越古墳群 | 古墳 | 古墳 | | |
| 052 | 大明神古墳 | 古墳 | 古墳 | | |
| 053 | 千種古墳 | 古墳 | 古墳 | 町 | |
| 054 | 天神境内四面仏・板碑 | 中世 | 石造物 | 町 | |
| 055 | オオキ墓地・宝塔・五輪塔 | 中世 | 石造物 | 町 | 県教委調査。五輪塔23基、宝塔2基 |
| 056 | 豊場城跡 | 中世 | 城 | | |
| 057 | 今寺観音四面仏 | 中世 | 石造物 | 町 | |
| 058 | 山口一天神銀鏡橋 | 近世 | 建造物 | 町 | |
| 059 | 早尾六地藏 | 中世 | 石造物 | 町 | |
| 060 | 立神ドトク遺跡 | 旧石器・縄文 | 包蔵地 | | 県教委調査。 |
| 061 | 野寺遺跡 | 縄文～中世 | 包蔵地 | | |
| 062 | 立神川上古墳 | 古墳 | 包蔵地 | | |
| 063 | 条里跡 | 古代・中世 | 生産 | | |
| 065 | 早尾服巻田板碑 | 中世 | 石造物 | 町 | |
| 084 | 今雨古墳 | 古墳 | 古墳 | | |

八代市(旧 鏡町) (463)

| 遺跡番号 | 遺跡名 | 時代 | 種別 | 指定 | 備考 |
|------|--------|-------|-----|----|--------------|
| 003 | 名和龍山墓 | 中世 | 墓 | 市 | |
| 004 | 八代郡倉跡 | 近代 | 包蔵地 | 市 | |
| 005 | 鏡ヶ池 | 近世 | 園池 | 市 | |
| 009 | 有佐貝塚 | 縄文 | 貝塚 | 市 | 縄文土器(中後期)・石斧 |
| 010 | 簗川義塾跡 | 近世 | 包蔵地 | 市 | |
| 012 | 有佐大塚古墳 | 古墳 | 古墳 | | 前方後円墳 |
| 014 | 条里跡 | 古代・中世 | 生産 | | |

八代市 (202)

| 遺跡番号 | 遺跡名 | 時代 | 種別 | 指定 | 備考 |
|------|---------|-------|-----|----|--|
| 013 | 岡城古墳 | 古墳 | 古墳 | | 城地、奇形石棺 |
| 014 | 岡城跡 | 中世 | 城 | | |
| 015 | 滝古墳群 | 古墳 | 古墳 | | 鬼の岩屋式石室 |
| 016 | 滝遺跡 | 近世 | 包蔵地 | | 住穴・縄文・弥生・土師・須恵・近世陶磁器 |
| 017 | 平原・野中遺跡 | 中世～近世 | 包蔵地 | | 住穴・井戸・土塀・貝塚、近世陶磁器・滑石製石鏡 |
| 018 | 岩隈本古墳 | 古墳 | 古墳 | | 横穴式。小型・農道脇に石室残欠 |
| 019 | 平原古墳群 | 古墳 | 古墳 | | |
| 020 | 玉泉寺古墳群 | 古墳 | 古墳 | | 第1～4号墳 第1号墳：須恵器(7世紀前半)・土師器。古塔碑群 第2号墳：7世紀前半、土師器 第3号墳：須恵、九州縄貫道 第4号墳：紫雲園に石材 |
| 021 | 玉泉寺古塔碑群 | 中世～近世 | 石造物 | | 五輪塔・板碑 |
| 022 | 行西古墳群 | 古墳 | 古墳 | 市 | 第1～4号墳 第1号墳：鬼の岩屋式石室、馬具残欠出土。宅地に石室露出。市指定史跡 第2号墳：鬼の岩屋式石室。宅地に石室露出。市指定史跡 第3号墳：鬼の岩屋式石室。宅地に石室露出。市指定史跡 第4号墳：円墳、鬼の岩屋式石室。紫雲園に墳丘残る。石室開口 |
| 023 | 山口古墳群 | 古墳 | 古墳 | | |
| 024 | 如見古墳群 | 古墳 | 古墳 | | 第1～2号墳 第1号墳：壑穴式石室 第2号墳：鬼の岩屋式石室。イナリサン古墳、石室露出 |
| 026 | 門前古墳群 | 古墳 | 古墳 | | 第1号～2号墳 第1号墳：内行花文鏡・菱形獣首鏡・方格規矩鏡・勾玉・管玉・刀 第2号墳：横穴式石室(墓飾)。同心円文。石材を公民館前に移転 |
| 027 | 谷川古墳群 | 古墳 | 古墳 | 市 | 第1～3号墳 第1号墳：鬼の岩屋式石室。宅地に石室露出。市指定史跡 第2号墳：鬼の岩屋式石室。宅地に石室露出。市指定史跡 第3号墳：宅地に墳丘が残る。一部石室露出 |
| 171 | 種山千水会所跡 | 近世 | 包蔵地 | | 山口2号墳一帯 |
| 172 | 行盛の墓 | 中世 | 墓 | | |
| 218 | 条里跡 | 古代・中世 | 生産 | | |

第2表 条里跡周辺遺跡一覧(2)

第3章 調査の方法と成果

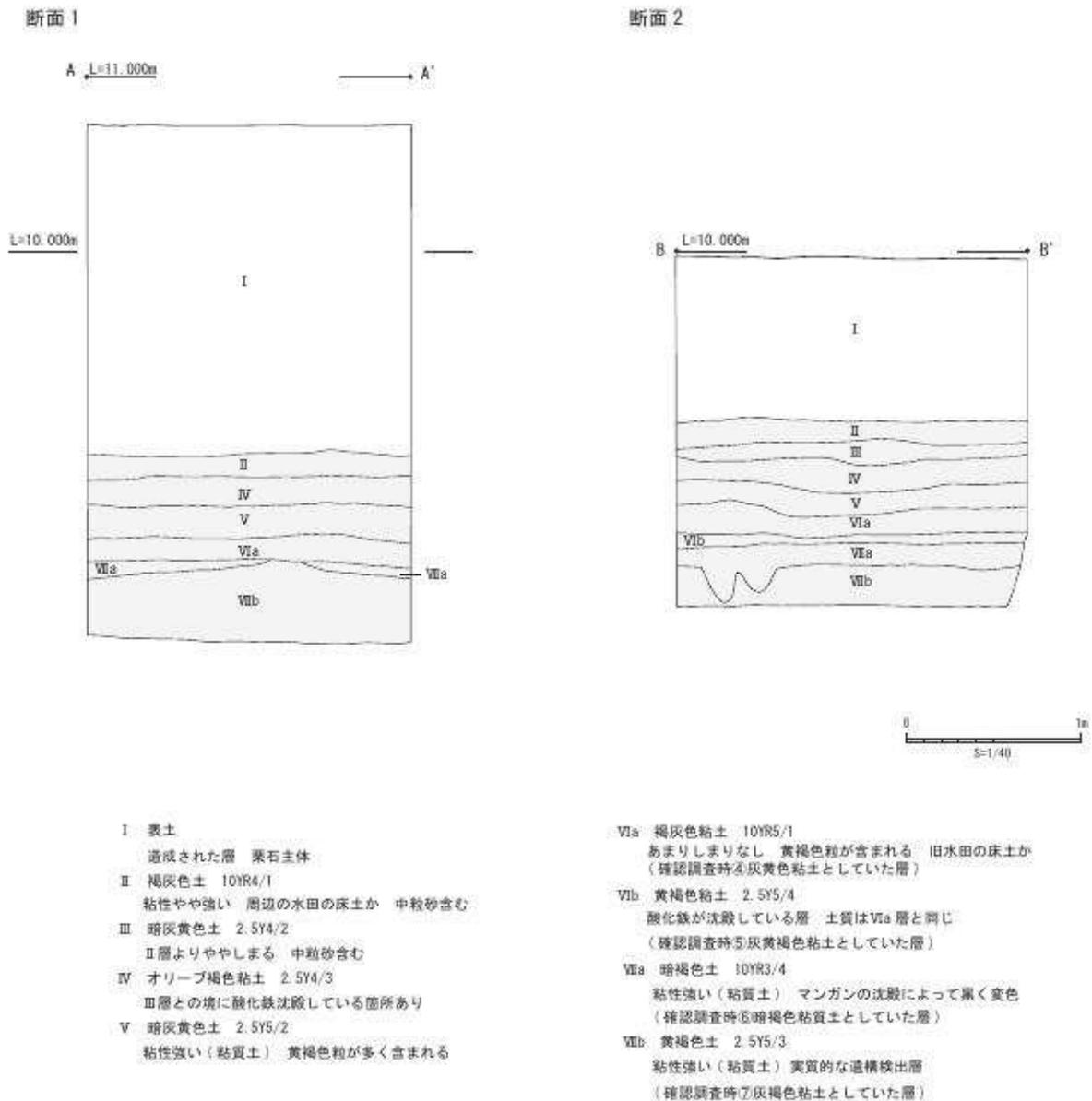
第1節 調査の方法

調査面積は600㎡であり、発掘調査は重機により表土（客土）を除去し、作業員により人力で掘削及び遺構検出作業を行った。

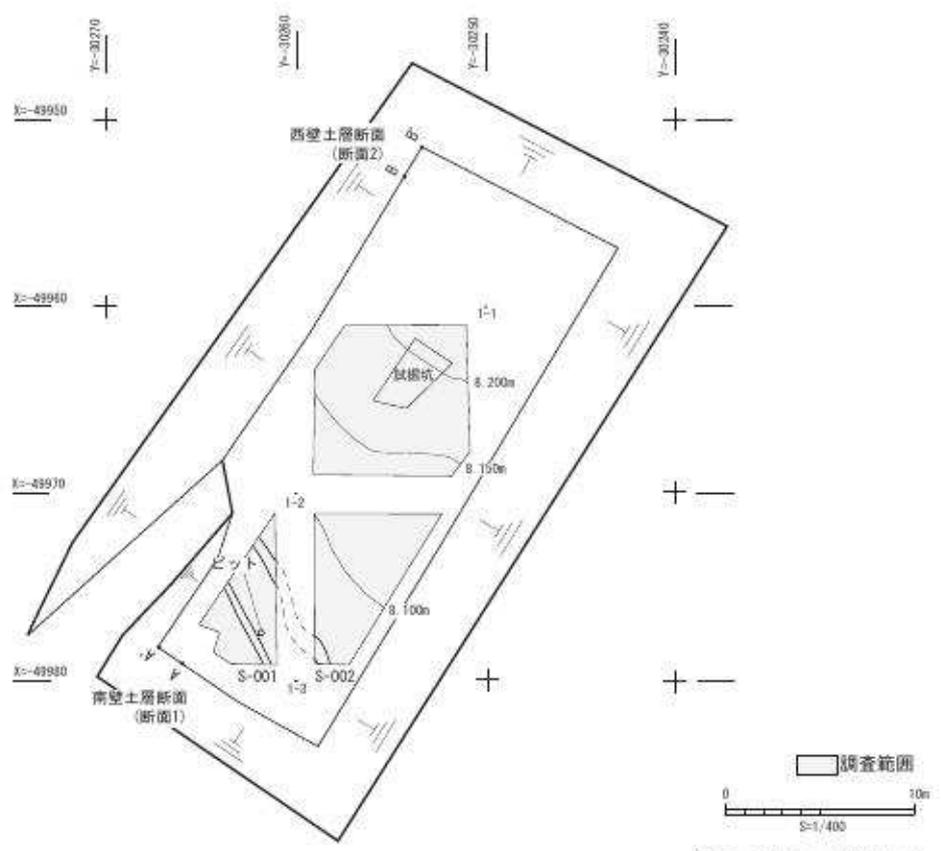
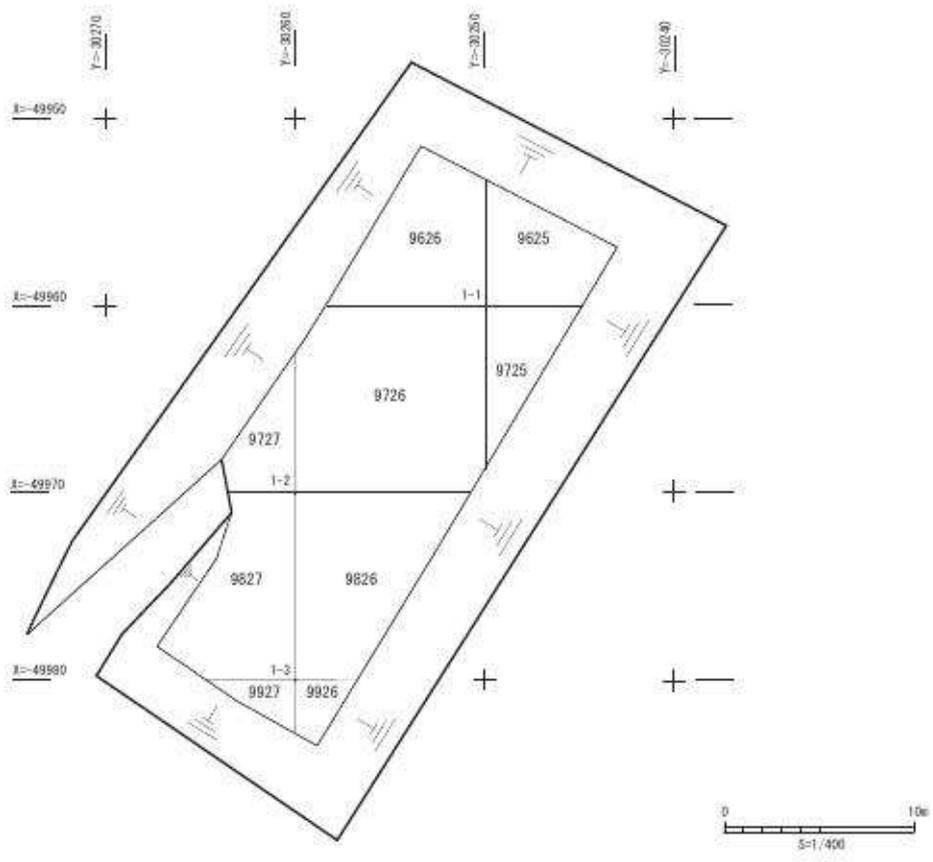
遺構掘削は人力により行った。検出遺構は土層断面図を作成した上で完掘。写真撮影後、平面図を作成した。

実測は、1/10の縮尺で土層及び遺構の断面図、1/100の縮尺で平面図を作成した。

写真は、検出時、モノクロフィルム及びリバーサルフィルムを使用し、35mmカメラで撮影した。



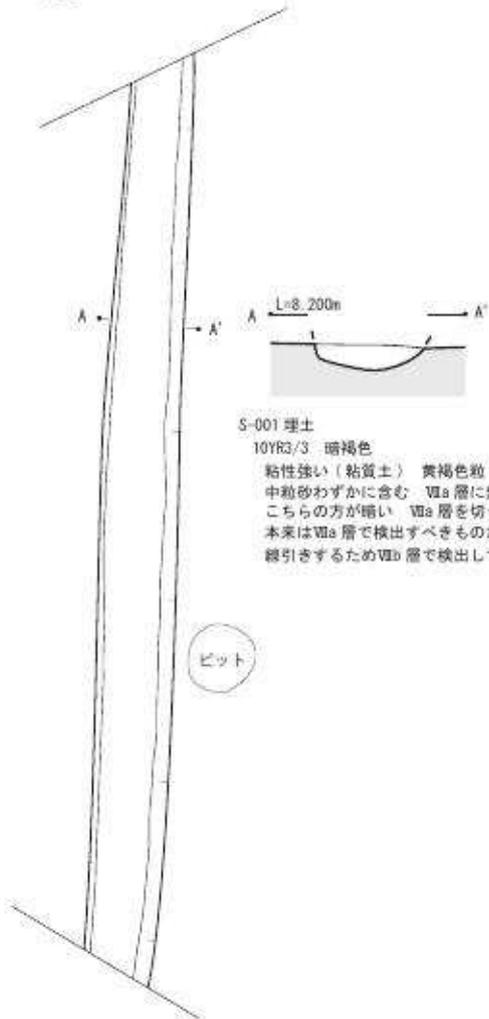
第2図 条里跡土層断面図



※コンタは5cm単位とした。

第3図 条里跡グリッド図・調査範囲及び遺構配置図

S-001



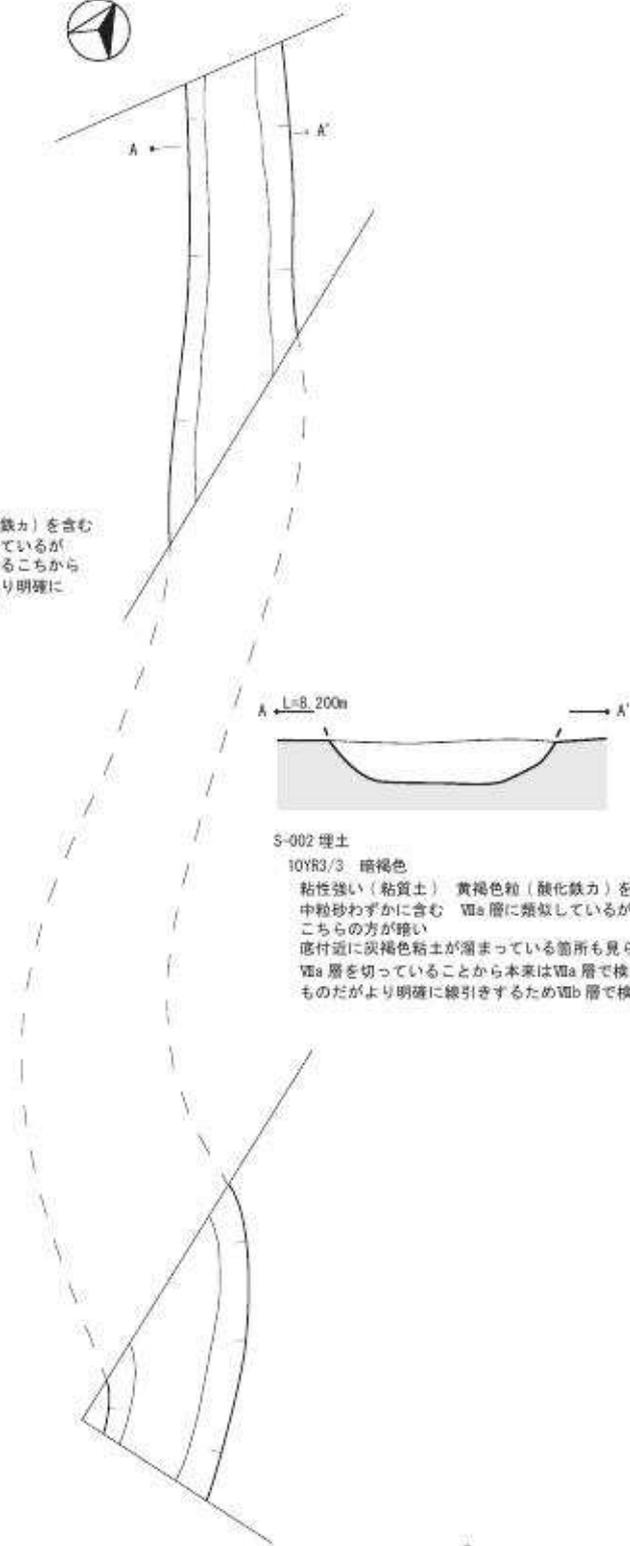
S-001 埋土

10YR3/3 暗褐色

粘性強い（粘質土） 黄褐色粒（酸化鉄カ）を含む
中粒砂わずかに含む VIIa層に類似しているが
こちらの方が暗い VIIa層を切っていることから
本来はVIIa層で検出すべきものだがより明確に
線引きするためVIIb層で検出している

ピット

S-002

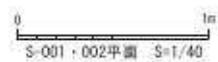
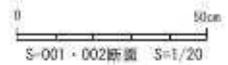
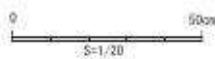
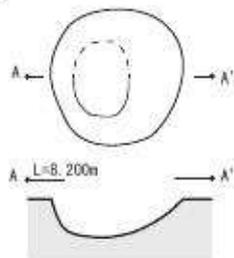


S-002 埋土

10YR3/3 暗褐色

粘性強い（粘質土） 黄褐色粒（酸化鉄カ）を含む
中粒砂わずかに含む VIIa層に類似しているが
こちらの方が暗い
底付近に黄褐色粘土が溜まっている箇所も見られる
VIIa層を切っていることから本来はVIIa層で検出すべき
ものだがより明確に線引きするためVIIb層で検出している

ピット



第4図 S-001・S-002・ピット実測図

第2節 調査の成果

1 遺構

(1) 溝

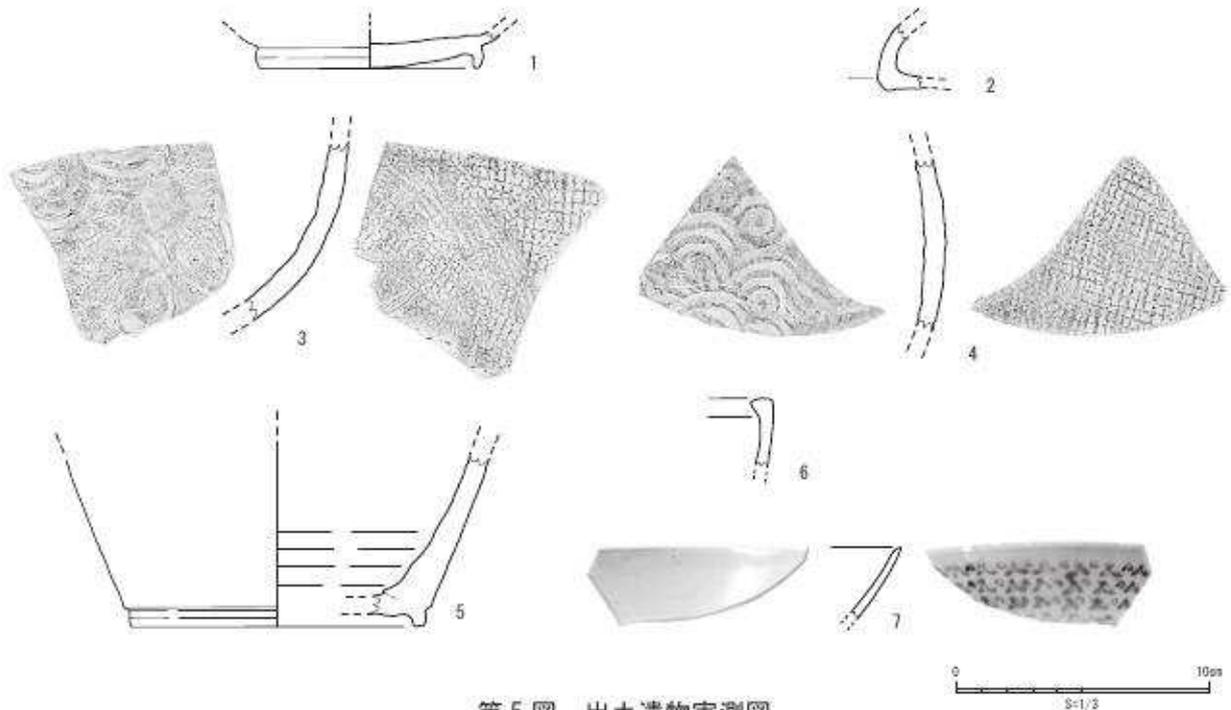
調査区の南西部(9827G)の位置に溝を2条検出した。どちらも北北西から南南東に並行・傾斜しており、S-001は長さ約5m、幅約40cm、深さ約15cm、またS-002は長さ約8m、幅約60cm、深さ約20cmであった。埋土はどちらも暗褐色(10YR3/3)で黄褐色粒を含むことから、同じ時期に掘られたと推測される。これらの遺構から遺物は確認できなかった。

(2) ビット

調査区の南西部(9827G)の位置にビットを1基検出した。径約35cm、深さ約20cmで、遺物は確認できなかった。

2 遺物

遺物としては、古代土師器、須恵器、輸入磁器、近世陶磁器、瓦等が出土した。遺構に伴うものは皆無で旧水田の床土から出土したものである。



第5図 出土遺物実測図

| 発掘 番号 | 報告 番号 | 出土地点 | 種別 | 器種 | 寸法 | | 調整 | | 色調 | | 胎土 | 焼成 | 備考 | |
|----------|----------|------|--------|-----|-------------|-----|------|----------|---------------|-------------------|-------------|-------------------|----|--------------------|
| | | | | | 直径 (筒口径) | 高さ | 外面 | 内面 | 外面 | 内面 | | | | |
| 5 | 1 | 実3 | 車懸ヘレンチ | 須恵器 | 杯 | 8.5 | 1.3+ | ナデ(回転ナデ) | ナデ | N6/ 灰白 | N7/ 灰白 | 石英・輝石 黒色粒 | 良好 | |
| | 2 | 実5 | 9726G | 須恵器 | 壺 | | 2.6+ | 不明 | 不明 | 10Y7/1 灰白 | 10Y7/1 灰白 | 黒色粒 | 良好 | 磨耗が大きい |
| | 3 | 実1 | 9726G | 須恵器 | 壺 | | 7.2+ | 叩き(格子目) | 叩き (青海波状文) | 5PB7/1 明青灰 | 5PB7/1 明青灰 | 黒色粒 | 良好 | |
| | 4 | 実2 | 9726G | 須恵器 | 壺 | | 6.9+ | 叩き(格子目) | 叩き (青海波状文) | 5P7/1 明紫灰 | 5P7/1 明紫灰 | 黒色粒 | 良好 | |
| | 5 | 実4 | 9726G | 須恵器 | 壺 | | 6.9+ | 回転ナデ | ナデ | N7/ 灰白 | N7/ 灰白 | 黒色粒 | 良好 | |
| | 6 | 実7 | 9826G | 青磁 | 香炉 | | 2.8+ | | | C-216 すずかけの樹の色 | C-215 大理石の色 | 緻密 | 良好 | 130 龍泉南 |
| | 7 | 実6 | 9826G | 磁器 | 鉢 | | 2.9+ | | | C-282 雲の灰色 | C-282 雲の灰色 | 緻密 わずかに黒 色粒を含む | 良好 | 漆付花唐草文 160 黒鉛線画 |

第3表 出土遺物観察表

第4章 まとめ

条里制とは、大化の改新前後から奈良時代にかけて、日本全国の広い地域にわたって施された土地の区割りのことである。条里は、六町四方の三十六町（約36ヘクタール）を里といい、一町四方の耕地を坪といった。一つの里を形成する三十六個の坪は、一ノ坪から三十六ノ坪までそれぞれ数詞で地番付けられた。そして、このような里は横列を「条」、縦列を「里」とし、並びによって何条・何里という座標でよばれた。また、方一町の坪の周囲には原則として畦畔と溝が作られた。溝は、田に水を引くためのほか、湿地帯である土地の排水をよくして、耕地として使えるようにするためにも作られた。

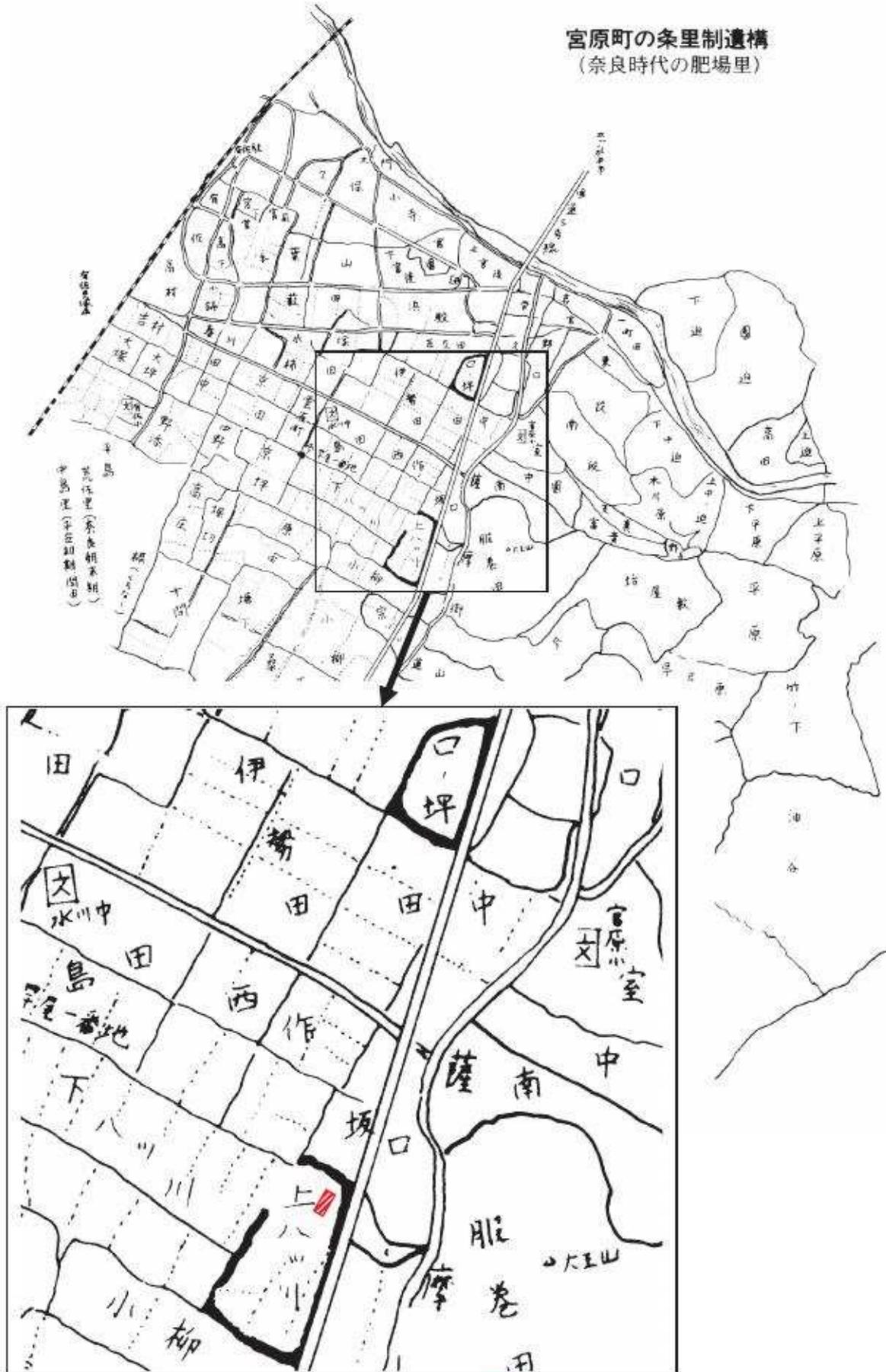
肥後の条里制は、奈良朝から平安初期にかけて行われたものと思われる。八代平野の条里は、細長く続く山麓線下の平野部にみられ、その西端はほぼJR鹿児島本線一帯にまでみられる。その中で、「口の坪（第6図）」は、氷川南岸の山麓沿いに広げられた条里の数え始めの「一ノ坪」を意味するものであろう。そして、溝を口の坪から直線に引き、八番目の坪に流しているのが八ツ川と呼び、上と下に分けて上八ツ川、下八ツ川の地名とされている。その上八ツ川に今回の調査区が位置する。

本調査で確認した遺構は少なく、2条の溝と1基のピットだけであり、住まいの痕跡は確認できなかった。ただ、2条の溝からは遺物は確認できなかったものの、埋土から同じ時期に掘られたと推察され、北北西から南南東に並行・傾斜していることから、それらは条里の用水路としての溝であることを推定したい。また、遺構に伴う遺物は確認できなかったが、8世紀後半から9世紀のものと思われる須恵器は河川の氾濫や暴風雨等によって水田に流れ込んだものだと推察される。

したがって、条里制に伴う区画等は検出されなかったが、周囲の状況や検出された溝などから、水田の可能性があり、古代の条里跡を窺うものであろう。

八代平野は条里制による治水と開拓によって氷川流域の平野の利用が著しく進み、肥後国の大穀倉と化していった一端を垣間見ることができた。今後、周辺での調査事例を待ち、条里跡の様相が明らかになることを期待したい。

宮原町の条里制遺構
(奈良時代の肥場里)



第6図 宮原町の条里制遺構と本調査区 (〰〰) (宮原町郷土誌 続々編)

引用・参考文献

- 「発掘調査のてびき―整理・報告書編―」 2010 文化庁文化財部記念物課
- 「宮原町郷土誌」 1959 八代郡宮原町公民館
- 「宮原町郷土誌 続々編」 1988 熊本県八代郡宮原町教育委員会
- 「竜北村史」 1973 竜北村教育委員会
- 「大野窟古墳発掘調査報告書（氷川町文化財調査報告書第2集）」 2012 氷川町教育委員会
- 「段横穴群―町道吉本本山線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査―（氷川町文化財調査報告書第3集）」
2014 氷川町教育委員会
- 「四ツ江遺跡―町道吉本本山線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査―（氷川町文化財調査報告書第4集）」
2014 氷川町教育委員会
- 「熊本県文化財調査報告第3集」 1964 熊本県教育委員会
- 「熊本県文化財調査報告第25集 熊本県の条里」 1977 熊本県教育委員会
- 「熊本県文化財調査報告第226集 玉名平野条里跡―県道長洲玉名線県橋梁改築事業に伴う埋蔵文化財発掘調査―」
2005 熊本県教育委員会
- 「熊本県文化財調査報告第261集 玉名平野条里跡（古閑前地区）―九州新幹線建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告―」
2011 熊本県教育委員会
- 「熊本県文化財調査報告第299集 玉名平野条里跡3・両迫間日渡遺跡2・玉名の平城跡」 2014 熊本県教育委員会
- 「龍泉窯青磁展」 2012 龍泉窯青磁展開催実行委員会
- 「日本磁器の源流」 2016 佐賀県立九州陶磁文化館



断面 1 (北から)



断面 2 (東から)

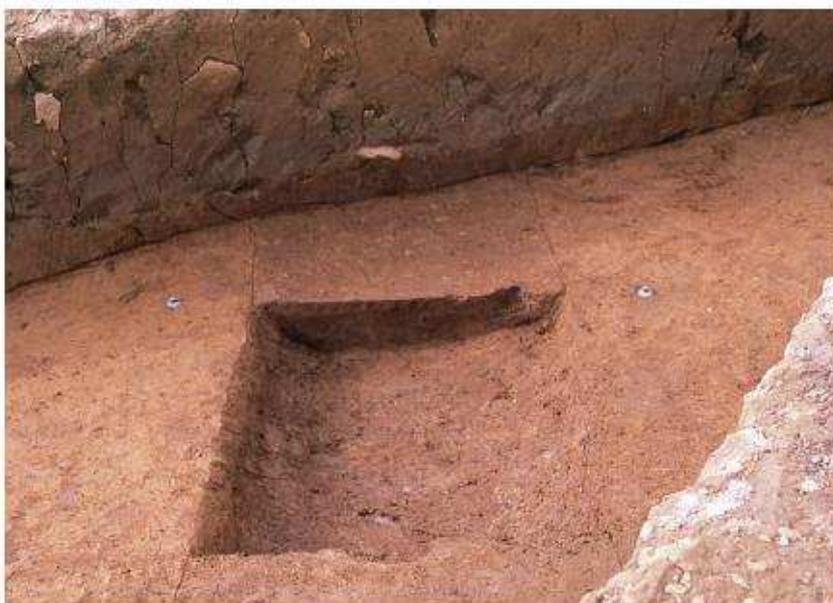




遺構検出状況
(南から)



S-001 土層断面
(南から)



S-002 土層断面
(南から)



報告書抄録

| | | | | | | | | |
|---------------|---|--------------|------|----------------|------------|------------------------------------|------|----------------------|
| ふりがな | じょうりあと | | | | | | | |
| 書名 | 条里跡 | | | | | | | |
| 副書名 | 氷川機動センター新築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 | | | | | | | |
| シリーズ名 | 熊本県文化財調査報告 | | | | | | | |
| シリーズ番号 | 第332集 | | | | | | | |
| 編著者名 | 田尻 龍信 | | | | | | | |
| 編集機関 | 熊本県教育委員会 | | | | | | | |
| 所在地 | 〒862-8609 熊本県熊本市中央区水前寺6丁目18番1号 | | | | | | | |
| 発行年月日 | 2018年3月31日 | | | | | | | |
| ふりがな | ふりがな | コード | | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 |
| 所収遺跡名 | 所在地 | 市町村 | 遺跡番号 | | | | | |
| じょうりあと 条里跡 | 八代郡氷川町早尾字上八ツ川154番地1 | 465 | 063 | 32°54'90" | 130°67'79" | 2016年7月25日～2016年9月30日 | 600㎡ | 氷川機動センター新築工事 |
| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | | 主な遺構 | | 主な遺物 | | 特記事項 |
| 条里跡 | 生産 | 奈良時代 平安時代 | | 溝 2条 ピット 1基 | | 古代土師器 須恵器 輸入磁器 近世陶磁器 瓦 | | 溝2条は、北北西から南南東に並行・傾斜。 |
| 要約 | 条里跡は八代地域の北部である氷川町宮原に位置する。今回の調査区は氷川下流域の平野である。氷川機動センターの新築工事に伴い、平成28年に熊本県教育委員会が発掘調査を実施した。遺構は溝2条（北北西から南南東に並行）とピット1基のみ確認した。遺物は、古代土師器、須恵器、輸入磁器、近世陶磁器、瓦等が出土したが、遺構に伴うものは皆無で旧水田の床土から出土したものである。 | | | | | | | |

熊本県文化財調査報告 第332集

条里跡

—水川機動センター新築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告—

発行年月日 平成30年3月31日

編集・発行 熊本県教育委員会
〒862-8609 熊本市中央区水前寺6丁目18番1号

印刷 株式会社 啓文社
〒861-3102 熊本県上益城郡嘉島町下六嘉 1765

発行者：熊本県教育委員会
所 属：教育総務局文化課
発行年度：平成29年度

この電子書籍は、熊本県文化財調査報告第332集を底本として作成しました。閲覧を目的としていますので、精確な図版などが必要な場合には底本から引用してください。

底本は、熊本県内の市町村教育委員会と図書館、都道府県の教育委員会と図書館、考古学を教える大学、国立国会図書館などにあります。所蔵状況や利用方法は、直接、各施設にお問い合わせください。

書名：条里跡

発行：熊本県教育委員会

〒862-8609 熊本市中央区水前寺6丁目18番1号

電話：096-383-1111

URL：<http://www.pref.kumamoto.jp/>

電子書籍制作日：西暦2019年8月30日

なお、熊本県文化財保護協会が底本を頒布している場合があります。詳しくは熊本県文化財保護協会にお問い合わせください。

熊本県文化財保護協会

URL：<http://www.kumamoto-bunho.jp/>